

思いや気持ちをこめて 豊かに表現する子どもを育てる歌唱指導

鳥取県小教研音楽部会一斉研修会

- 1 期日 平成30年9月20日(木)
- 2 場所 米子市立彦名小学校
- 3 アドバイザー 島根県合唱連盟副理事長 岡田正樹先生
- 4 内容

【公開歌唱指導】

彦名小学校4年生を対象に歌唱指導が始まった。歌う曲は「キミの夢」である。最初に全曲を通して歌ってみる。元気な歌声である。「上手だね。」の岡田先生の一言で子どもたちの歌う意欲は、すぐに高まっていった。まずは「舞台上上がったらスイッチオン」という話があったから、実際にシャッターのように手で顔を隠し、手を広げていくと子どもたちの表情が一気に明るくなった。そして、「キミの夢」を途中で止めながら練習し、子どもたちと聴講の先生たちで掛け合いのように歌うことで「音楽はキャッチボール」という意識が子どもたちの中に芽生えていった。その後、「野ばら」を歌った後、映画「野ばら」の1シーン(トニーがウィーン少年合唱団の入団試験を受けるところ)を視聴し、発声練習と「野ばら」の歌唱をした。「トニー君のように歌ってみよう」という声かけでイメージを持たせながら、どんどん転調して歌っていく中で、子どもたちの声はより響きのある美しい頭声へと変わっていった。また、胸声と頭声の使い分けを意識するために、胸声のことを「大地の声」、頭声のことを「空の声」と表現しながら、「野ばら」を歌いながら切り替えの練習をした。先生の手(胸声は右手、頭声は左手)を合図に子どもたちは上手に胸声と頭声を使い分けていた。最後は、もう一度4年生の児童が「キミの夢」を歌った。「最後の音は顔を下げずにドヤ顔で」という声かけの後には、最後まで自信を持って歌い切ろうとする子どもたちの思いが表情から伝わってきた。自分たちのイメージに合わせて表現しようとする気持ちは更に高まり、響きの豊かさや力強さが加わったすばらしい歌声となった。

【参加者対象実技指導】

講習会では、まず基礎練習をした。早口言葉、息を流すイメージ練習(自分の指を誕生ケーキのろうそくと見立てて吹き消す)、「めだかの学校」でロングトーン練習、CMソングの一部を使って眉間に声を集める練習、「線路は続くよどこまでも」の合いの手で胸声と頭声の切り替え練習、音の重なりを感じるための輪唱など、子どもの興味を引くような様々な方法を学んだ。その後、「小さな空」「葡萄と風と赤とんぼ」など数々の楽曲を歌い、言葉を大切にしたり歌詞の情景を思い描いたりすることで、声がそろっていくことを実感することができた。また、子どもたちと同じように参加者の先生方も岡田先生の指導により、歌うことの楽しさに引き込まれ、歌いたくなる環境を作りあげることの大切さをあらためて感じることもできた。

「“声”は一つしかない。だからこそ、自分の声や友達の声を大切にできる子どもを育てたい」と言われた言葉は、とても印象的だった。

5 参加者の感想から

- 岡田先生の指導を受け、とても前向きな気持ちになりました。歌って楽しい、歌うことはすてきなこと、今の気持ちを子どもたちに伝えたいです。合唱の楽しさを子どもたちといっしょに味わっていこうと思います。
- 公開歌唱指導では、子どもたちの元気な歌声を、さらに響きの豊かなきれいな歌声へと変化させるための様々な指導のテクニックを見せてくださり、音楽会に向けた実践に生かしていきたいと思いました。歌唱指導講習では、いろいろな曲を歌いながらあらゆる技を教えていただき、自分自身も歌うことを楽しんで講習を受けることができました。「声」はそれぞれ一つしかないものなので、自分の声、友だちの声を大切にできる子どもたちを育てていきたいと思っています。